発電用ダム湖におけるオオクチバス駆除の試み

中西嘉人（中部電力株式会社）・淀　太我・野々目亮（三重大学大学院生物資源学研究科）
○北村　浩昭（株式会社テクノ中部）

【背景】

特定外来生物オオクチバスは電力会社の所有する発電用ダム湖でも生息が確認されており、他の水生生物への食害が懸念されている。オオクチバス駆除は、全国各地で様々な取り組みがなされており、ダム湖で活用できる方法も多いと思われるが、発電用ダム湖の中には水位変動が激しい、山間地にあり透明度が高い、オオクチバスの個体数が低水準で維持されているといった特徴のあるダム湖もあり、一般的な駆除方法が有効でない場合も考えられる。また、地域情勢から駆除に伴う他魚種の混獲に配慮が必要な場合も多い。

そこで、本事例では、これまでに知られている方法を参考にして、さまざまな駆除方法を試行し、発電用ダム湖に適した駆除方法を探った。また、将来的な駆除作業において、ダム管理者など魚類採集経験が少ない者が実施することも念頭に置きつつ、有効な方法を検討し、駆除マニュアルを作成した。

【対象としたダムの特徴】

・山間地にあり、透明度が非常に高い。
・岸の大半が急傾斜地で尖った石が多く、そのような場所での産卵が多い。また、定置網などは設置できない。
・水位変動が激しく、かつ不安定で、繁殖成功の年変動が激しい。
・個体数密度が低く、大型の単独個体が見られる割に、小型個体の群れを見ることはほとんどない。
・ブルーギルは生息していない。

【成果のまとめ】

各駆除方法のポイントと作業の難易度を下表にまとめた。なお、難易度は魚類採集経験が少ない者を想定した。

対象ステージ	駆除方法	ポイント	作業の難易度
未成魚 成魚	刺網 (狩り刺網)	・網入れ、網あげ時に脅す。 ・未成魚は同じ場所で繰り返し設置。 ・成魚は産卵床周辺等に設置。 ・長時間の設置や夜間の設置は避ける。	中～難
	小型三枚網	・網を破られないように工夫する。 （枠、沈子を外す、糸を太くする等。） ・沖に引きずられても良いように、浮きを付ける。	易
	シェード刺網	・周辺に物陰がない場所、時期に実施。 ・網あげ時に脅す。 ・シェードは長期設置し、網は捕獲時のみ取り付ける。	中
	投網	・未成魚は同じ場所で繰り返し狙う。 ・成魚は表層付近の個体を狙う。	難
卵	天然産卵床 破壊	・先入観をもたずに様々な場所を探す。 ・1回／5日程度の頻度で探索を実施。 ・成魚を確認したところは要注意。 ・小型三枚網での保護親駆除の後に破壊。	易
	人工産卵装置	・産卵が始まるまでに、網場に設置。 ・1回／5日程度の頻度で観察。 ・小型三枚網での保護親駆除も試みる。	易
稚魚	タモ	・モヤッとした塊を注意深く探す。 ・成魚を見つけたら要注意。	易
	投網	・投網リングで素早く網目をつぶす。 ・分散しても時間をおいて繰り返し捕獲。	中